



昭和大学藤が丘病院 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2022年7・8月
第347号

病院だより第347号（2022年7・8月号）
発行者 昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者 広報・公開講座委員長 森岡 幹
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
Tel 045-971-1151

100%安全で効率的な集中治療を目指して

藤が丘病院 集中治療科
診療科長 佐藤 督忠

この度、集中治療科診療科長を拝命しました佐藤督忠です。私は藤が丘病院の内科研修医として医師のキャリアをスタートし、その後も多くの時間を藤が丘病院で働かせて頂き、医療のみならず医師としての理念を含め学ばせて頂きました。1997年に循環器内科に入局し、その後約6年救命センターへ出向、さらに2015年からは冠疾患集中治療室（CCU）に従事していました。この期間、重症患者の全身管理に携わるうちに循環器の知識だけでは立ち行かない局面を何度も経験し、集中治療の重要性に意識が向くようになってきました。



集中治療というのはCOVID-19感染による呼吸器不全へのV-V ECMO導入などでかなり注目をされるようになりましたが、各診療科の重症患者をサポートする縁の下の力持ち的な役割が主体となります。重症化した入院患者への対応および院内の急変予防の管理といった面が主な役割です。重症患者を救命する一見花形的な診療科に思えますが、治療の基本は患者の症

状、バイタルサイン、水分バランス、栄養摂取状況、検査所見など細かな観察項目を地道に観察し、問題点があれば一つ一つ細目に対応していくことです。

来年からは遠隔集中治療プログラム（eICU）が当院にも導入されます。これは約20km離れた品川区にある昭和大学病院のeICUセンターと当院が電子カルテ、呼吸心拍モニター、室内画像モニターが繋がり、24時間365日eICUセンターでも観察が行われ、さらにアドバイスが得られる画期的なシステムです。2018年にアジア初として導入され、現在でも日本においては昭和大学だけが運用しており、附属病院の1つである江東豊洲病院ではすでにその効果が確認されています。先ほど述べた重症管理の基本となる患者の細かな観察が、多くの医療者の目で絶え間なくできるため、重症患者のより一層の安全で効率的な治療に寄与できることと思います。

医療の高度化、社会の成熟化とともに医療の安全性を守るシステムも発達してきましたが、複雑性も増してきています。今後も医療の進歩、社会状況の変化がある限り、医療安全システムも常に100%安全を目指して変化に対応していく必要があります。藤が丘病院の100%の安全、安心な医療に向けて集中治療科という場で日々取り組んでいきたいと思っています。

腎移植外来を開設しました

腎移植をより理解していただくことを目的に、7月より腎移植専門医による腎移植外来が開設されました。腎移植を考えている方や希望する方への全般的な医療相談として、適応や手術内容、術後の生活全般、献腎移植登録、社会支援などについて、昭和大学病院腎移植センター長の吉武 理准教授が対応します。どうぞご利用ください。

診察日 毎月第3土曜日 10:00から14:00まで
担当者 吉武 理 准教授

管理課長新任のあいさつ

藤が丘リハビリテーション病院 管理課
課長 大川 宏

2022年4月1日より藤が丘リハビリテーション病院管理課長として着任いたしました大川宏と申します。身に余る重責でございますが、昭和大学の建学の精神である「至誠一貫」の言葉を胸に、藤が丘リハビリテーション病院及び地域の皆様方に貢献できるよう、市川病院長と倉地事務長のもと努めていく所存でおります。

私は1999年に昭和大学に入職し、教務部教務課（現学事部学務課）、昭和大学病院医事課、施設部施設課、昭和大学病院クオリティマネジメント課と、約二十年間を旗の台エリアで過ごしておりました。今回、初めて藤が丘という地域にまいりましたが、交通の便が良く、駅周辺に商業施設が集約化されたとても住みやすい街という印象を受けました。また、地域の皆様方はとても暖かく接してくださり、これは我々の先輩方が築いてくださった信頼関係の賜物であり、この関係性をより強固なものにしていきたいと思っております。

藤が丘リハビリテーション病院は総合的なリハビリテーション専門施設として1990年に開院しました。人間で例えるならば現在は成人期であり、最も充実した時期に該当します。昭和大学の特色である「チーム医療」の精神が根付き、多職種が連携して実践する診療体制については盤石なものとなっております。また、急性期病院である昭和大学藤が丘病院や昭和大学横浜市北部病院、そして、ご近隣の医師会や医療機関の先生方にもご支援を賜り、地域連携体制も万全なものとなっております。

今後の課題といたしましては、今般の診療報酬改定による入院料の見直しや、重症患者割合の引上げ等への対応がございます。また、建物や設備については、ライフサイクル上、折り返し地点に差しかかっており、中期的な更新計画に則った工事等が必要な時期になってまいりました。

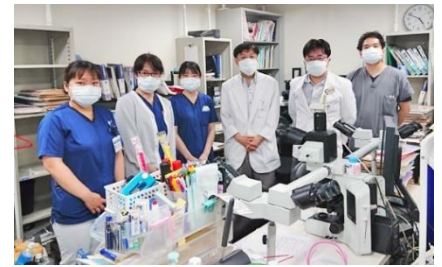
在職中は様々な問題や困難にも直面すると思いますが、皆様方のお力を拝借しながら、真心を持って尽力してまいります。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



病院診療の根幹を支える病理診断とは？

藤が丘病院 臨床病理診断科
診療科長補佐 小川 高史

2020年7月より、大池信之先生の後任として当科へ赴任しました。慣れない大学状況や検体数の豊富さに圧倒され、日々の診断や会議等に追われる毎日ですが、特任教授の楯先生、大学院生の谷藤先生（泌尿器科）、協力的な病理検査室のスタッフに支えられ日常業務をこなしております。更に本院より非常勤医師の派遣や昨年4月からは助教の上田先生も加わり、業務の分担により精度の高い診断に努めています。



診療体制

当科スタッフは、現在常勤3名で、そのうち病理専門医2名、細胞診専門医2名、非常勤医師は6名（そのうち、病理専門医1名、口腔病理専門医2名）です。また、病理検査室のスタッフ4名、事務2名、医局秘書1名の協力なくして業務の遂行は難しい状況です。

特徴的な診療領域

私が病理業務に携わって20年以上が経過しましたが、当初は免疫染色の種類も少なく、HE標本でいかに診断するかが重要でした。現在は膨大な数の免疫染色により、より精度の高い診断が可能となってきています。例えば、分化の悪い腫瘍の組織型決定や腫瘍の原発巣の推定、悪性度評価、治療薬剤決定に関与するバイオマーカーの確認などです。更に近年は、病理組織検体よりDNAを抽出し遺伝子レベルでの検索も可能となり、コンパニオン診断により治療に直結した病理診断が重要性を増しています。

病理学は究極的には病因の解明がその本質的なところですが、大学病院において病理業務（病理細胞診断、迅速診断、解剖）、研究、教育のいずれも重要であることは言うまでもありません。現在は日々の病理業務をこなすことに手一杯ですが、今後は研究教育にも力を入れていきたいと思っております。

病理診断業務も、昨今の医学の進歩により情報量や煩雑さが増加してきておりますが、新しい状況にも柔軟に対応し、より患者さんや臨床への貢献ができるように日々精進してまいります。今後も変わらぬご支援、ご協力、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和4年度病院ワークショップを開催

6月18日(土)に令和4年度病院ワークショップが開催されました。テーマに沿って4チームが編成され、メンバーは医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・臨床工学技士・MSW・事務員の多職種で構成されました。藤が丘病院、藤が丘リハビリテーション病院をより良い病院へと発展させるために、各チーム終始和やかな雰囲気の中、職種横断的な討議が行われました。今後、ワークショップで提案された案を基に、活動を進めていく予定です。



(藤が丘病院 管理課 永井 彰)

7月7日の七夕に合わせて

7月7日の七夕に合わせて、藤が丘病院1階エスカレーター前とリハビリテーション病院1階入り口付近に七夕用の笹を設置いたしました。横浜市北部病院からいただいた立派な笹に、患者さんや職員の願いが込められた色とりどりの短冊がたくさん飾られ、夏らしい雰囲気となりました。

短冊を笹に結び付けることも七夕の醍醐味ではありますが、コロナウイルス感染予防対策として、昨年度に引き続き短冊は事務員により設置されました。来年度こそは皆さんが気兼ねなく七夕を楽しんでもらえるように願うばかりです。すべての短冊に込められた願いが叶うように私たちも祈っております。



(藤が丘病院 管理課 中村 優花)

DMAT-L (Local) 隊員養成研修を受講

6月18日(土)、19日(日)の2日間、厚木市の消防学校にてDMAT-L 隊員養成研修を受講しました。DMAT-Lとは、県内で発生した災害に急性期に活動できる機動性を持ち、局地災害対応に係る専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームのことで、今回、藤が丘病院からは医師1名、看護師2名、臨床工学技士1名、事務1名の計5名が参加しました。



初めはどのような研修を受けるのかも分からず緊張していましたが、先輩方にも支えられ無事2日間を終えることができました。DMATという言葉自体を知らない私には全ての情報が真新しく、とても新鮮な経験でした。しかし、隊員になることがゴールではなく、災害が起こった際に一隊員として最大限被害を抑えるという重要な目的があります。局地災害に派遣された際には防ぎ得る災害による死亡を減らすため尽力したいと思います。

(藤が丘病院 管理課 廣井 高志)

市民公開講座を開催しました

7月14日(木)から8月12日(金)にかけて藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院 令和4年度第1回市民公開講座が開催されました。今回のテーマは、「昭和大学におけるロボット支援下直腸手術～昭和大学藤が丘病院で導入して～」と、「熱中症～専門医が伝えたい命を守る対策～」としました。

昨年度からの新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑み、今年度もWEB開催(YouTube)としました。また、昨年度の動画は藤が丘病院と藤が丘リハビリテーション病院のホームページ内からの視聴のみと限定しましたが、今年度はより多くの方にご覧いただきたいとの思いから一般公開といたしました。

公開初日から動画の一部に不具合が発生し、視聴者の方々には大変ご迷惑をおかけしました。しかしその中でも多くの方にご覧いただきまして喜ばしい限りです。これからも少しでもみなさまの暮らしに役立つ情報を提供できるよう努めてまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

(藤が丘病院 管理課 廣井 高志)

二人主治医制の推進に向けて

藤が丘病院 医事外来管理係 秋山 英利

現在、昭和大学藤が丘病院、昭和大学藤が丘リハビリテーション病院では、附属病院全体のプロジェクトとして「二人主治医制」の推進に取り組んでおります。藤が丘病院 64 件、藤が丘リハビリテーション病院 12 件、計 76 件の地域連携パスを作成して運用しております。

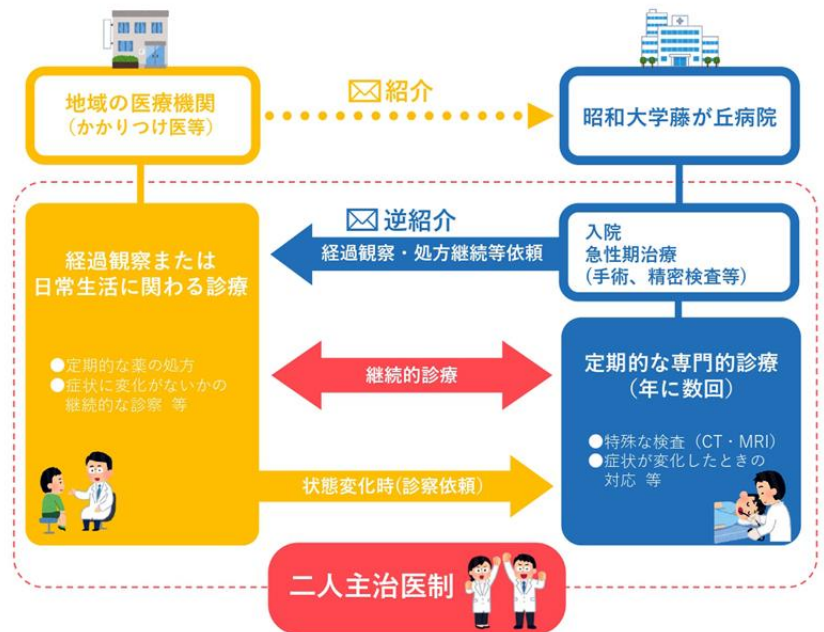
患者さんの健康管理を地域全体で行い、安心して受診していただけるような地域連携を推進しております。当院での急性期治療が終了したら、投薬等の経過観察は地域の医療機関へ、定期検査は当院で実施し、近隣医療機関の医師と当院医師との二人が主治医となって診察を行います。双方の医師が紹介状（診療情報提供書）を通して、病状や検査結果など正確な情報を共有して質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。

昭和大学藤が丘病院の2階に二人主治医制支援部門の窓口を設けております。医師からの依頼に基づいてリーフレットを用いた説明や治療内容、受診のタイミング等を患者さんにご案内しております。また地域医療機関からの問い合わせにもご対応しております。二人主治医制についてご相談がありましたら、二人主治医制支援部門までお声がけください。

二人主治医制のご案内

昭和大学藤が丘病院では、地域医療連携の取り組みとして、「二人主治医制」を推進しています。

昭和大学藤が丘病院では、患者さんの健康管理を地域全体で行い、安心して受診いただけるような地域医療連携を推進しています。当院での急性期治療が終了したら、投薬等の経過観察は地域の医療機関へ、定期検査は当院で実施し、**近隣医療機関の医師と当院医師との2人が主治医**となって診察を行います。双方の医師が紹介状（診療情報提供書）を通して、病状や検査結果など正確な情報を共有して質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。



受診されているクリニックがない方は、当院が日頃から連携している医療機関または患者さんのご希望に合わせた医療機関をご案内させていただきます。お気軽に二人主治医制支援部門へお声がけください。

二人主治医制に関するお問い合わせは
二人主治医制支援部門へ
☎ 045-971-1151(代表) (平日8:30~17:00)

昭和大学
藤が丘病院
〒227-8501 神奈川県横浜市青葉区藤が丘1-30

診療統計 2022年6月・7月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2022年6月	2022年7月	2021年6月	2022年7月
外来患者数	24,512人 (942.8人/日)	22,836人 (913.4人/日)	4,410人 (169.6人/日)	4,191人 (167.6人/日)
入院患者数	13,994人 (465.5人/日)	14,690人 (473.9人/日)	5,400人 (180.0人/日)	5,387人 (173.8人/日)
紹介率	93.2%	80.4%	76.5%	70.8%
逆紹介率	77.2%	72.2%	71.2%	70.8%

〈広報・公開講座委員会委員〉

森岡 幹 酒井 広隆 鈴木 洋 佐々木 春明 今井 敦 市川 度 松原 大
小岩 文彦 高木 睦子 前田 うづみ 山寺 志保 孫 雨晨 岡部 圭吾 門田 美佳
川手 信行 佐藤 美津恵 西村 栄一 廣井 高志 高橋 良治 (順不同)